

1. 解体と再統合の時代に

-いまとは違うもの，ここにはないもの，いま主流でないものが「次」をつくる

2. 思想とデザインの相補性

- 「フィルタ」としてのデザインによるアンコンシャス・バイアスへの働きかけ

3. 「じゃない」と「組み合わせ」

- 組み合わせが隙間を埋め，ハブをつくる

1

解体と再統合の時代に

そもそも時間・空間・属性・制度において様々な活動・滞在の場所が分かれていることへの疑問／不便さ ・**制度の解体と再編** →**モデル事業**

1. 施設から事業拠点へ : 施設というパッケージから、事業と拠点の計画へ

- ①ノーマライゼーションと“建物・機能パッケージ”の解体
- ②地域資源の活用によるまちと福祉の融合
- ③事業ありき，利用者ありきで

2. そもそもとそれから : なにをつくり～いかに使うか。計画のフェーズの拡大

- ①建築の時間>用途・ニーズの時間
- ②人の時間>必要なサポートの時間
- ③地域の時間>>生活者と利用者の時間
- ④使われ方+住まい方研究=使い方研究

3. 混在と滞在 : 様々な価値や機能が並立的に存在することを前提とする。まずはただ居られることからはじまる

- ①偶然の出会い性
- ②混在という価値
- ③滞在という価値

4. 地縁・血縁から利用縁へ

血縁や地縁を超えた，福祉・医療・教育サービスやその提供拠点の利用（興味関心や必要な支援の共通性）
というつながり

医療福祉をはじめ、住まいや教育も含めた【広義の福祉機能】が拠点となって、共生型コミュニティを形成する実践例

- 地方部での公共機能集約
- まちなかでの既存機能が融合した多機能な地域の拠点（場所）

→複数事業によるハブ機能

→機能の融合による新しい機能の創出の可能性

→それらの拠点が医療や福祉機能の利用圏域を誘引する側面も

こうした拠点は**公共施設**，**民間事例**を含み，**担い手と場は多様化**

住宅やオフィスの「**住み開き**」や，私設公民館のような多様な活動と滞在を誘う事例など

これらは

- **社会のニーズの多様化**
- **地域特性を尊重する風潮**
- **「施設」の解体と再編，施設から事業へ**
- **新自由主義から【コモン／新しい公共】へ**

といった**社会的な変化**とも連動

コミュニティ・まちづくり・集いの拠点

0410

文化住宅を改修したオープンオフィスが地域の居場所と地域再生の拠点に

公益社団法人 青年海外協力協会 JOCA 大坂



東京電機大学・加藤瑞基

JOCA 大阪は古い木造文化住宅を改修した青年海外協力協会の事務所を，地域に開かれたオープンオフィスとしている事例である。地域住民がとスタッフが，カフェのセルフ利用やフリースペースの利用を通じ交流を深めている。また，地域イベントや JOCA へのフリースペースの貸し出しも行い，地域再生活動の拠点施設としての役割を担っている。

<https://pjcatalog.jp/archives/688>

コミュニティ・まちづくり・集いの拠点

0411

ニュータウン商店街の空き店舗に開かれた，まちの居場所

ひがしまち街角広場運営委員会 ひがしまち街角広場



居場所ハウス・田中康裕

ニュータウンでは，住民たち自身の手による等身大の居場所が求められていた。ひがしまち街角広場は新千里東町の近隣センターの空き店舗を改修した，ふらりと立ち寄れる場所を目指すコミュニティカフェである。初期は社会実験として開かれ，その後，自主運営でボランティア団体が運営している。多様なまちづくりや住民の関係づくりの起点としても多大な役割を果たしてきた場である。

<https://pjcatalog.jp/archives/591>

コミュニティ・まちづくり・集いの拠点

1563

乳幼児，高齢者たちの中で地域団体も集える新しい形の複合福祉施設水道局営業所跡地に建つ，高齢者の在宅サービスを中心とした共生と地域の交流福祉拠点

社会福祉法人 京都老人福祉協会

伏見区墨染まちとくらしセンター



京都大学大学院工学研究科建築学専攻・吉田哲

墨染まちとくらしセンターは，社会福祉法人によって子どもから高齢者まで地域に暮らすすべての人の共生拠点，地域の課題を把握し，協同で解決する連携拠点を目標して建てられた施設。支援を受ける側・する側，地域団体やまちづくり関係者が集い，地域の課題も議論する場も持つ新しい形の複合施設である。何より乳幼児のにぎやかな声のある環境がそこに集うすべての人を元気にする。

<https://pjcatalog.jp/archives/2436>

利用者（活動の主体）

（誰でも使える）
限定されない



Public : 公的な制度と管理のもとで運用される空間。どのような人でも利用できるが、利用する時間や内容（行為、様態等）は制限される。

Common : 一定の集団の管理のもとで運用される空間。利用される時間や内容は、運営者による。集団外の他者の利用もありうる。

Private : 民間の事業者等が管理・運営する空間。公的制度を民間が担う事業所は、Public と Private の性格を併せもつ。

Individual : 個人の所有と管理になる空間。運営者や周囲の状況、時勢等によって運用の幅が大きい。安定性は低い。

場の趣旨と帰属に
即して限定される



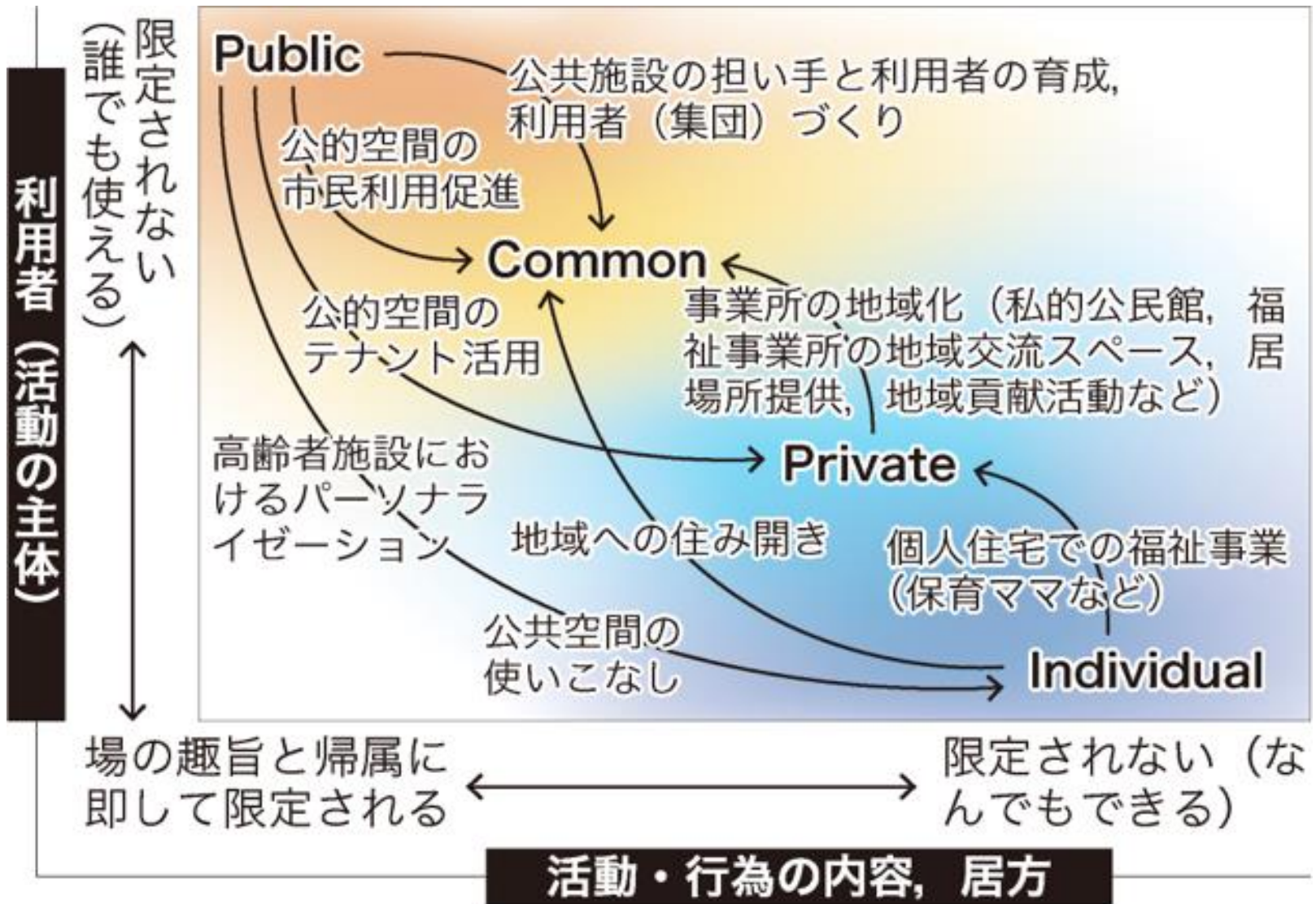
限定されない（な
んでもできる）

活動・行為の内容, 居方

〔公, 共, 私, 個〕は利用者と行為のグラデーション :

〔Public〕と〔Private〕の中間に、利用者がある程度限定的で、行為の自由度もある程度高い〔Common〕が位置づけられる

その多様性は場所の選択肢, 「変化」は可能性を増やす要素



「公、共、私、個」の層移転である「変化」は、「場」のあり方の多様性、利用者や行為の可能性を増やす
→ 「はずれ者が進化をつくる」

広義の福祉機能(医療・福祉・教育・居住・交流)が起点となる多様な共生コミュニティとその拠点事例の総覧化による、先行事例での工夫や課題のシェアのため、事例紹介ウェブサイト(ぷろログ)を立ち上げました。

カタログ = CATALOG のようにパラパラと見たり、タグを使って検索する中で、思いがけない事例に出会い、そうして出会った事例を蓄積・シェアする仕組みとしたいと考えます。

= (場所を, 情報を)開くこと, シェアすること, 偶然をデザインすること

<https://pjcatalog.jp>



PROJECTS'
CATA-LOG
Projects' case and tag log

医療・福祉・教育・コミュニティ等の機能を持つ
建築の企画や建築事例を紹介するウェブサイト
[Projects' CATA-Log] プロジェクトカタログ: ぷろログ



<https://pjcatalog.jp/>

このサイトでは、広義の福祉機能(医療・福祉・教育・居住・コミュニティ)が起点となる多様な共生コミュニティの事例とその拠点、またそうした活動を紹介するため、建築・施設の種別にとらわれない、様々な事例=Projectsを集めています。

これらの事例を、カタログ=CATALOGのようにパラパラと見たり、気になる事例を検索する中で、似た要素を持つ、思いがけない事例に出会えるように、「ひとと活動」や「ハッシュタグ」など、これまでのいわゆる「施設種別」を超えた視点から事例を整理し、探すことができるようにしました。

このサイトが、あたらしい事例や建築との出会いにつながることを願っています。

ピックアップの事例

地区の家

- <https://pjcatalog.jp/archives/1104>
- <https://pjcatalog.jp/archives/1113>

JOCA東北

- <https://pjcatalog.jp/archives/2240>

2

思想とデザインの相補性

思想がデザインとなり

電車では、なるべく多くの人に座って欲しい→7人掛けのデザイン
こどもでも自立して身の回りのことをしたい→什器寸法への配慮
車と人のゾーンは分けたい→歩車分離
住民同士の交流を図りたい→生活の向き&動線の交差
事故を防ぎたい→ホームドア, 一見不便なネジ止め..

デザインが思想をつくります。

アンコンシャス・バイアスの再生産

デザインは つねに
アンコンシャスバイアスを含み
その場所の状況をつくる

例えば

〇〇という属性をもつ人に特化
した「施設」をつくること
「福祉らしい」デザイン...

一方で、
デザインによるフィルタは、
それに共感を持つ人たちと
場所を共有するために役立つ

デザイン（への配慮）によって

- その場所へのフィルタ性を高める
 - 場所のコンセプトを伝える
 - その場所のコンセプトを共有する
- その場所の価値を高める
 - そこにしかない／そこに行く理由
 - 居心地
- まちに価値を与える
 - 周辺の景観や地域イメージへの寄与
 - 双方向に価値を高め合う

3

組み合わせが隙間を埋め、 ハブをつくる

「じゃない」の力

見たことがない = 新規性

このアレンジはすごい = 地域等に応じたカスタマイズ
やってみたい = 変化を誘発する

「組み合わせ」の力

多様なサービスの組み合わせによる 事業全体の安定性

相互の利用者呼びこみ 等の効果

今まではつながれなかった人を呼び込む

特異性・オリジナリティ = 選ばれる理由

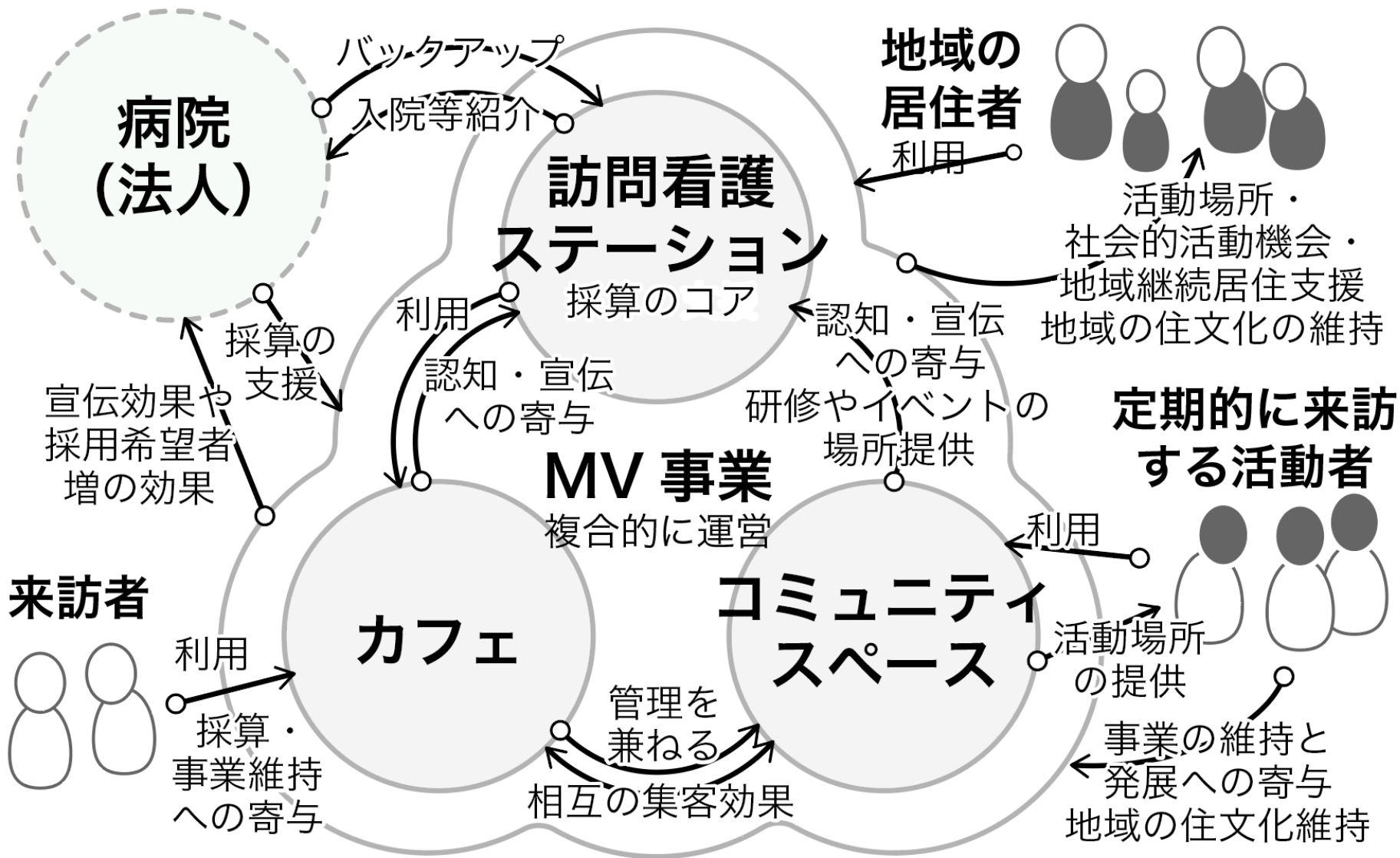
株式会社ハピネスランズ・一般社団法人HAHA 多世代シェアハウス「オーナーズテラス」

- 普通の老人ホームと違って交流ができる，スタッフ以外の若者の助けがある（付加価値）
- ひとり親世帯ではできない体験（付加価値）
- 新しい考え方だということで介護者を集められる（既存の状況への閉塞感）
- 母子シェアハウスだけでは採算がとれない（複合化の事業効果）
- これまでの自宅を手放すことなく，家賃収入を得ながら，今の自分に合った生活環境を得られる（阻害要因の除去）
- 配慮点：ケアラーのケア，近隣への説明と協力の要請，入居者会議（コミュニティの手入れ），認知症カフェなど地域貢献とネットワークづくり等

一般社団法人地域包括ケア研究所＋ 小野路宿メディカル・ヴィレッジ事業

- 複合的な地域課題の、複合的な解決／軽減
 - 「自分らしさ」を大切に（コミュニティありきでなく、個人が尊重されることでコミュニティが継続する）
- 地域で暮らし続けることの支援（ターミナル期でも自宅で住み続けられる選択肢）
 - 顔の見える安心感のなかでの選択
 - 医療へのつながり，ワンクッション
- 「ごちゃまぜ型」で実施
 - 社会はそもそも多様な人々で構成されている
 - 関係性のつながりになるテーマ／活動を設定
 - 利用のハードルを下げて，みんなでこの場所をつくろうという機運につなげる
- 地域にもともとあった文化や関係，価値観を活かす
- バックアップ施設（病院）の採用につながるという「効果」（複合化の間接的な効果）

例：ひふみ会さんの事業の組み合わせ



MV：メディカルヴィレッジ事業

公益財団法人神戸学生青年センター・認定NPO 法人ウィメンズネット神戸 六甲ウィメンズハウス

- 経済的に、また生活の基盤に困窮する人々（困難があるが、十分に福祉の対象としてケアされてこなかった人々：対象者の発掘）
- 相互扶助のコミュニティ（若年者の呼び込みで地域の高齢化への手当て）
- 互助居住モデル（個人ベースでなく）
- ストック活用・リソース活用の選択肢
- 企業SCRの選択肢のひとつ→国の事業へ
- 住まいは福祉の基盤／福祉の基盤としての住まい（前提の変換）
- 単なるケア付きの住宅ではなく、交流を通じて自立のための意欲や自信を醸成する（いきどまりでない福祉：ステップ）

1. 解体と再統合の時代に

-いまとは違うもの，ここにはないもの，いま主流でないものが「次」をつくる

2. 思想とデザインの相補性

- 「フィルタ」としてのデザインによるアンコンシャス・バイアスへの働きかけ

3. 「じゃない」と「組み合わせ」

- 組み合わせが隙間を埋め，ハブをつくる